

逃げ出し野生状態で生えていた。種子を香辛料として利用するクロタネソウ属の1種 *Nigella sativa* も野生化していた。農園は畦も裸地状態におくより植被された状態の方が蒸発散が防げるためもあって除草されないので、かなり多くの草本植物を見出すことができた。

今回の調査で73種の高等植物を採集できた。Maire (1933)は中央サハラ100,000 km²の範囲に480種があると記しているが、上記の数はその18%に過ぎない。調査の精度も考慮されねばならないが、種数の少なさは調査地

は大半が無植生の岩と砂地であり、中央サハラの中でも最も植物の生育にきびしい環境にあることを反映したものといえる。なお、今回の調査地は植物地理区系ではインド西部からアラビア半島を経てサハラ沙漠の北緯20度以北を占める Saharo-Sindian regional zone に含まれる。

(^aThe University Museum

The University of Tokyo,

^bUniversité des Sciences et

de la Technologie Houari Boumediène, Algeria)

マメ科の新帰化植物ヤナギバレンリソウ (大橋広好^a, 五十嵐 博^b)

Hiroyoshi OHASHI^a and Hiroshi IGARASHI^b: *Lathyrus sylvestris* L. (Leguminosae), a Newly Naturalized Legume in Japan

ここに報告するレンリソウ属の帰化種は北海道上川支庁東神楽町の小林秀雄氏によって見つけられたもので、五十嵐は発見者の案内で2002年7月26日に同支庁美瑛町下宇莫別の道路人工法面でこれを採集し、わが国への帰化が記録されていない *Lathyrus sylvestris* L. と考え (五十嵐 2002), 大橋に標本を送り同定の確認を求めた。大橋は同種であることを確認し、この原稿をまとめた。 *Lathyrus sylvestris* L. は日本への新帰化植物であるのでヤナギバレンリソウと名付けることとした。英名は narrow-leaved everlasting pea であるが、中国植物誌42 (2): 278 (1998) に同意味の別種があり、本種の小葉幅にはかなりの変異があることもあって和名を英名の翻訳にできなかった。

Lathyrus sylvestris L. ヤナギバレンリソウはヨーロッパ原産で、シベリアからも報告され、北アメリカにも帰化している。このため北海道への帰化はどこからか推定できない。本種はヒロハノレンリソウ *L. latifolius* L. (ヨーロッパ原産、北海道と本州に帰化) に最もよく似ているとされる (Hegi 1924, Ball 1968). Hegi (1924), Fernald (1950), Hitchcock (1952), Ball (1968) などによると、ヤナギバレンリソウは托葉の幅が茎の幅よりも狭いこと、小葉は線形から狭卵形であること、花は長さ約1.5 cm であることなどの特徴によっ

て、ヒロハノレンリソウ (大形の托葉では幅が茎の幅と同じかより広く、小葉は楕円形から狭卵状長楕円形、花は長さ2 cm 以上である) と区別できるという。

今回の帰化品は次のような形態を示す。無毛のある多年草。茎はよじ登り形、長さ60–200 cm、幅1–3 mmの翼がある。葉は1対の小葉をもつ。小葉は長さ5–10 cm、幅0.5–1.2 cm、線形から狭卵形、巻きひげはよく発達し、枝分かれする。托葉は基部から2裂片に分かれ、裂片は線状狭卵形、不同長、長さ1–1.3 cm、基部側のものがやや短く、幅は茎の幅の半分以下で約2 mm。総状花序で3–10花をつけ、ふつう花序柄は基部の葉よりも著しく長い。花は長さ約15 mm、花冠は淡赤色から赤色、萼は長さ5–7 mm、萼裂片は狭卵形、不同長、最下の裂片は他よりも長い。旗弁は反曲し、広倒心形、爪は舷部よりも短い。翼弁と龍骨弁の爪は舷部の約半分の長さ。豆果は長さ5–7 cm、幅8–10 mm、無毛、約10個の種子がある。

Lathyrus sylvestris はかなりの変異を示す種で、小葉の幅が4 cm、花は長さ2 cm に達するものもあり、ヒロハノレンリソウに似た形となる。しかし、今回の帰化品は本種の変異幅の中の標準的な形に当たるようである。なお、本種の図は Ross-Craig (1954) に分かり

やすい図があり、また種の文献の中にも引用したものがあるので、同定の参考となるであろう。

Lathyrus sylvestris L., Sp. Pl. 733 (1753); Hegi, *Illust. Fl. Mit.-Europa* 4 (3): 1595, tab. 171, fig. 5 (1924), ut “*silvester* L. s. str.”; Fedtschenko in *Fl. URSS* 13: 492 (1948), ut “*silvestris*”; Fernald, *Gray’s Manual Bot.* 935 (1950); Hitchcock in *Univ. Washington Pub. Bot.* no. 15: 11, fig. 31 (1952); Ross-Craig, *Drawings Brit. Pl.* part 7 *Legum.*: plate 73 (1954); Ball in *Fl. Europ.* 2: 141 (1968); Stace, *New Fl. Brit. Isl.* ed. 2, 415 (1997).

Voucher specimen: Naturalized in Japan. Hokkaido. Kamikawa Prov., Biei-chô, Shimo-ubakubetsu, alt. 270 m, roadside. 26 July 2002. H. Igarashi (TUS 278850, 278851).

引用文献

- Ball P. W. 1968. *Lathyrus* L. Tutin T.G. et al. (eds.), *Flora Europaea* 2: 136–143.
- Fernald M. L. 1950. *Lathyrus* L. in *Gray’s Manual of Botany* ed. 8. 932–936. American Book Company, New York.
- Hegi G. 1924. *Lathyrus*. *Illustrierte Flora von Mitteleuropa*. ed. 1. 4 (3): 1562–1609.
- Hitchcock C. L. 1952. A revision of the North American species of *Lathyrus*. *Univ. Washington Pub. Biol.* no. 15.
- 五十嵐 博. 2002. 2002年帰化植物確認情報. 北海道野生植物研究所報告 No. 22, p. 7. 北海道野生植物研究所発行.
- Ross-Craig S. 1954. *Drawings of British Plants. Part 7 Leguminosae*. G. Bell and Sons Ltd., London.
- (^a東北大学大学院理学研究科
附属植物園津田記念館,
^b001-0013 札幌市北区北13条西3-13
13条ビル2F ムーブ植物設計内,
北海道野生植物研究所)

日本新産のアブラナ科植物，ニセオランダガラシ（新井勝利^a，大場秀章^b）

Katsutoshi ARAI^a and Hideaki OHBA^b: *Nasturtium microphyllum* (Brassicaceae), a New Record from Japan

著者等は、現在進行中である *Flora of Japan* のアブラナ科原稿作成の過程で収蔵標本を検討していたところ、*Nasturtium microphyllum* Boenn. ex Rchb. が日本でも採集されていたことが判ったので報告する (Figs. 1, 2). 本種はオランダガラシに類似するため、その存在が見過ごされていた可能性もあるので、ニセオランダガラシの和名を提唱するとともに報告することにした。

本種はオランダガラシから、種子が角果の各室に1列につくこと (Fig. 2B), 種子の表面にある網目の区画が種子の片側に100以上あること (Fig. 2A), 成熟した角果の幅が0.8–1.2 (–1.8) mm になること, などで区別できる。これまでのところ北海道, 山形県, 東京都, 神奈川県, 山口県で見出されているが、注意すればさらに本州の他県でも見つかる可能性があると考えられる。標本のデータから、日本では水辺の湿った場所が本種の生育地となっていると考えられる。

本植物の同定に協力いただいたミズーリ植物園の Ihsan Al-Shehbaz 博士ならびに収蔵標本を利用させていただいた国立科学博物館植物研究部に謝意を表す。

Nasturtium microphyllum Boenn. ex Rchb., *Fl. Germ., Excurs.* 683 (1832); *Icon. Fl. Germ.* 2: t. 50, f. 4360 (1838). *Hedge in Rech. f., Fl. Iran.* 57: 215 (1968).

Specimens examined from Japan. Hokkaido. Prov. Hakodate, 15 Aug. 1899, J. Matsumura s.n. (TI). Honshu. Yamagata Pref., Yamagata, 28 June 1931, S. Okuyama 3502 (TNS); Tokyo, late May to middle June, unknown coll. s.n. (TI); Kanagawa Pref., Hiratsuka, 22 Mar. 1938, M. Togashi s.n. (TI); Yamaguchi Pref., Otsu-gun, Fukagawa-machi, Kawahara, 7 June 1935, F. Tamai 51122 (TNS).

During our studies of the Japanese Brassicaceae with Dr. Ihsan Al-Shehbaz, Missouri Botanical Garden, we found an unrecorded spe-